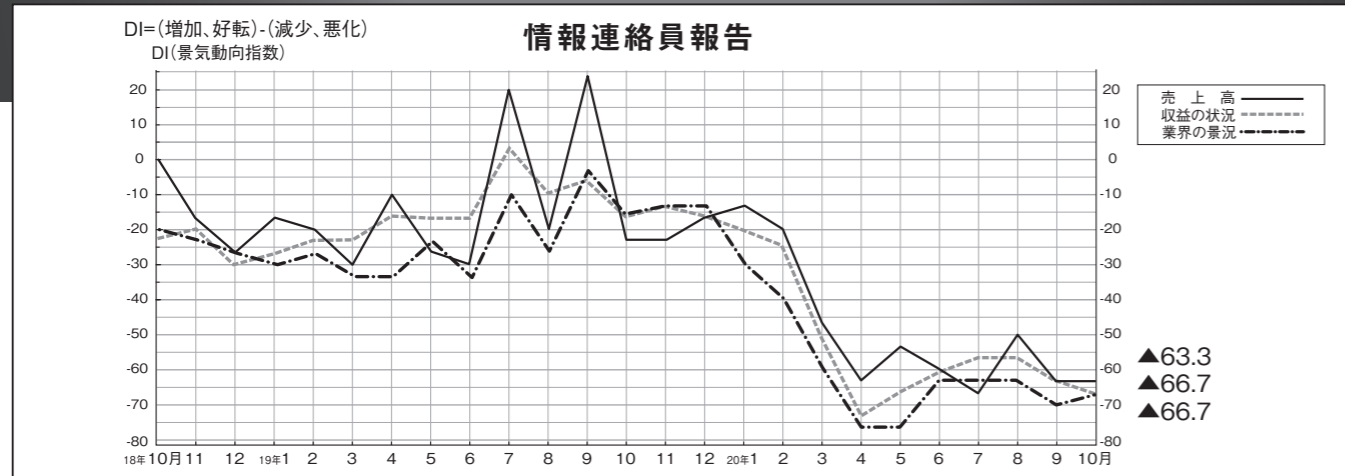


# 情報連絡員報告を中心とした 県内各業界の動向

2020年10月 (前年同月比)



業界の状況 | ☀️...好転 ☁️...やや好転 ☁️...不変 ☁️...やや悪化 ☔️...悪化

<p><b>食品団地</b></p> <p>10月度市況は、若干人の動きが現れ、観光土産品の販売に活気があった。しかしながら新型コロナの影響は食品産業に大きなダメージを与えているようだ。</p>	<p><b>生コンクリート製造</b></p> <p>高知市を中心とする地区の市況低迷は、未だに改善されていない。</p>
<p><b>酒類製造</b></p> <p>前月、10月からの酒税減税もあり大きく落ち込んだ分今月を期待したが、挽回には至っていない。やはり宴会、イベント、会合の自粛、観光客の減少による土産品の減少等外食産業、宴会自粛の影響は続く見込み。</p>	<p><b>コンクリート製品</b></p> <p>出荷数量は、前年同月比125%。前年5月分の出荷から西日本豪雨による災害復旧工事の発注により増加が続いていた。7~9月分は前年度より低下したが、10月分は、持ち直した。</p>
<p><b>テントシート</b></p> <p>新型コロナウイルス感染防止対策による、各種イベントの中止、延期等により全体的に売上減少となっている。特にイベント関連主力の事業所は大変な状況である。今年中は、現在の状況が続くと思われる。</p>	<p><b>機械団地</b></p> <p>取引先の生産縮小による受注減等が続いている。新型コロナ禍による受注の落ち込み等により、前年を下回る業績となっている事業所が複数ある。製造業においてもGoToキャンペーン等の景気浮揚策が望まれる。</p>
<p><b>木製品素材生産</b></p> <p>10月はスギ・ヒノキ共に量・材価について横ばいの状況である。春先から言えば材価・量ともに回復傾向にはあるが、製品市況・需給状況が見通せない不安があるなど確実に見通せないのが現状である。</p>	<p><b>刃物製造</b></p> <p>売上金額は昨年を上回ることができたが、やはり小売業者への売上金額は減少している。海外向けの品でその落ち込みを補っている状況。小売業者への売上は若干回復の兆しも見えるが今後注視していきたい。</p>
<p><b>製材</b></p> <p>需要の停滞、新型コロナ禍の問題等も含め全般に低調で、この状態は今後も続きそう。</p>	<p><b>船舶製造</b></p> <p>受注残の消化にて、操業度は高い水準。</p>
<p><b>製紙(家庭紙)</b></p> <p>情報用紙等の需要が減少していた中、新型コロナの関係で、より一層その傾向が顕著となっている為、大手製紙メーカーは、家庭紙に注力。中小家庭紙メーカーは、今迄以上に厳しくなる事が予想される。</p>	<p><b>珊瑚装飾品製造</b></p> <p>10月の製品会取引額は前年同月比89%と、やや回復傾向となったが、11月は新型コロナの影響により当初予定していた製品大会を通常の製品会に変更したことから、取引額の大幅な減少が懸念される。</p>
<p><b>印刷</b></p> <p>官公需はプレミアム商品券、GoToイート等の特需で回復傾向。民需は相変わらず低調。県外需要も一部小規模のイベント開催等で改善傾向。9月までからすると確実に回復傾向が見られるが前年対比は割れている。</p>	<p><b>卸団地</b></p> <p>1.GoToトラベルの効果で宿泊施設は忙しい様子だが、外食店についてはそれほどの効果を感じられない。2.景気は悪化しており、回復の兆しが見られない。3.東京、関西等県外との商談機会が減少。取扱量の減少。</p>

<p><b>青果卸売</b></p> <p>量販店の売上は相変わらず好調であるが、業務関係は未だ改善されていない。寒くなるこれからの心配である。</p>	<p><b>商店街(四万十市)</b></p> <p>四万十市内の「商店街応援商品券」はほぼ売り切れ、残り少量。「はた旅クーポン」は飲食店に限らず小売店でも予想を超える使い方。「はれのば」(四万十テラス)の半年遅れのオープニングイベントは盛況。</p>
<p><b>生鮮魚介卸売</b></p> <p>マグロの入荷は少ないが、需要も少ないので間に合っている。カツオは順調に入荷。小物のアジ、サバの入荷は少なく、サンマも高値で少ない。コロナの影響で仕出し、血鮓はいまだに8割・9割減。</p>	<p><b>旅館・ホテル</b></p> <p>恒例の秋季大型イベントが新型コロナにより中止・規模縮小となり減収ではあるが、GoToキャンペーンの影響もあり復調傾向がみられる。現状、料飲(宴会・レストラン)は宴会需要の激減により厳しい状況である。</p>
<p><b>各種小売(土佐市)</b></p> <p>飲食業は昼間は少しずつお客様が戻ってきたが、夜はまだ厳しい。</p>	<p><b>飲食店</b></p> <p>業種、店舗により差はあるが売上高は前年度比6~7割程度。今後も廃業や閉店が心配。業界の景況回復にはまだ時間を要する。雇用調整助成金の期間延長等、雇用維持の取り組みが県全体としても大変重要。</p>
<p><b>ガソリンスタンド</b></p> <p>10月原油価格は安定。だが、新型コロナ再感染拡大に伴い欧州ではロックダウンの予想も出ており需要の低下を懸念。高知はGoToトラベルの影響もあつてか、前年には及ばないが、まずまずの売上数量。</p>	<p><b>旅行業</b></p> <p>組合・全旅クーポン共に前年同月50%以上割り込み、10月末の総売上は前年同時期の20%。個人旅行売上は政策により好転しているようだが、要の団体旅行が大幅に減少、今後大変厳しい状況である。</p>
<p><b>電気機械器具小売</b></p> <p>10月度は、全商品平均で前年比92%。特に前年アップの商品は、空気清浄機だが、メーカー在庫はほとんど品切れ。</p>	<p><b>一般土木建築工事</b></p> <p>令和2年10月分の公共用生コン出荷量は、前月比104.1%、前年同月比86.0%。公共工事請負金額は前年同月比で82.0%。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事など大型工事は継続。</p>
<p><b>中古自動車小売</b></p> <p>依然、相場高騰で下げ止まりが見えない状況だが、販売台数は上昇傾向。販売価格帯も低額車両から高額車両まで幅広い。販売台数、客単価ともに向上したが、仕入れ相場高騰のため、収益増にはなっていない。</p>	<p><b>電気工事</b></p> <p>組合員の施工する電力引き込み線の工事は、前年同月比97.2%とほぼ同様となった。</p>
<p><b>商店街(安芸市)</b></p> <p>安芸市発行のプレミアム付き商品券の使用が10月1日から開始。昨年は商店街で実施したハロウィンイベントが、今年は新型コロナの影響で実施できなかった。人が集まるイベントの実施には皆にも抵抗がある様子。</p>	<p><b>一般貨物自動車運送</b></p> <p>荷動きは鈍くまだまだ回復しているとは言い難い状況、組合事業も前年度割れとなった。新型コロナの影響は、物量の減少、感染対策への経費増。今後、資金繰りの悪化が懸念される。</p>
<p><b>商店街(高知市)</b></p> <p>恒例となった「高知大道芸フェス」新型コロナ禍にあつて開催が危ぶまれたが、芸人23人全員PCR検査を済ませて来高するなど、考えうる限りの感染防止対策を実践することで開催に至った。</p>	<p><b>タクシー</b></p> <p>実働1日1車当りの前年同月比営業収入：89.3%、輸送回数：87.8%。実働率は53.6%。昼間の利用者は戻ったようだが、夜の利用者が少ないと各社が言っている。</p>

## 挑戦の数だけ、 保険がある。

To Be a Good Company

TOKIO MARINE NICHIDO 東京海上日動

